



タイ教育旅行特集

学習効果の高い体験教育素材がそろったタイ教育旅行デスティネーションとして大注目

毎年100万人を超える日本人が訪れているタイ。ビジネスでも観光でもタイと日本の関係は深く長く、その友好の歴史から親日国としても知られている。日本語教育を取り入れている学校も多く、日本の中学校や高校と姉妹提携を結んでいる学校も少なくない。文化、歴史、自然などさまざまな教育的素材もそろい、日本からのアクセスも抜群。政情も安定し、世界経済の成長エンジンとして期待されるアセアンの中心国として存在感も高めている。異文化交流をはじめ、今のタイで学べることは多い。教育旅行のデスティネーションとしてのタイ。その潜在性は想像以上が高い。

を入れており、日本語による交流だけでなく、英語によるコミュニケーション機会も少なくない。タイの文化や歴史に実際に触れる機会も教育効果が高く、学習意欲の向上につながるだろう。たとえば、民族舞踊、工芸品、少数民族、仏教の教えなど。これまで経験したことのない未知の世界にわずかでも足を踏み入れるだけで、大きな刺激になるはずだ。

「カオヤイ国立公園」。バンコクから200kmほどしか離れておらず、アクセスも容易だ。公園の85%が森林に覆われ、約95種の樹木が森を形成。そのなかでは多様な動物が生態系をつくっており、野生のゾウやトラ、そのほか絶滅危惧種に指定されている哺乳類も生息している。公園内では、森の中をゾウの背中に乗って巡るエレファントトレッキングが体験可能。トレッキングコースも整備されているので、タイの貴重な自然を散策しながら学習することもできる。

このほか、ビーチではシュノーケリング、シーカヤックなどのマリンスポーツが豊富にそろっている。仲間同士の絆を深め、協力し合う大切さを再確認できるチームビルディングに最適なプログラムも多彩にそろっている。

タイ教育旅行、選ばれる6つのポイント

Point 1

歴史文化遺産の宝庫、学べる素材いろいろ



植民地にならずに独立を保ち続けてきたタイには、歴代王朝が育んできた独自の文化が今もなお残っている。スコタイ、ランナータイ、アユタヤ、トンブリー、ラタナコーシン、各王朝を代表する史跡が全国に点在している。世界文化遺産は、「古代都市スコタイと周辺の古代都市」「古都アユタヤ」「バン・チアンの古代遺跡」の3カ所。そのほか、首都バンコクや北部の中心都市チェンマイには王宮や数々の歴史的寺院があり、タイの歴史と文化を学ぶ格好の素材がそろっている。

また、東北部ナコンラーチャシーマー県にあるピマイ遺跡は、現在のカンボジアにも広がっていたクメール王朝の遺産。二重の周壁に囲まれたタイ最大級の大乗仏教寺院遺跡で、アンコールワットの原型になったとも言われている。このほか、第二次世界大戦中に旧日本軍が建設した秦緬鉄道の起点となった町カンチャナブリ。映画『戦場にかける橋』の舞台となったクワイ川鉄橋、JEATH戦争博物館、連合軍共同墓地などがあり、平和について考える機会として期待できるだろう。



Point 2

便利なアクセス、リーズナブルに宿泊も

日本からバンコクまでのフライト時間は5~6時間。現在(2012年度冬期スケジュール)、タイ国際航空が札幌、羽田、成田、名古屋、大阪、福岡から、日本航空が羽田、成田、大阪から、全日空が成田と羽田から、デルタ航空とユナイテッド航空が成田からバンコクへ直行便を運航している。毎年100万人以上の日本人がタイを訪れるため、その航空路線網は太い。また、時差もわずかにマイナス2時間。時差ボケの心配もなく、現地での滞在時間を有効に使うことが可能だ。



物価が安く、リーズナブルな大型ホテルが多いのも魅力。たとえば、バンコクの「モンティエンリバーサイドホテル」。ロビーが広く、エレベーター台数も多いため、修学旅行には最適なホテルだ。中心部から少し離れるが、市内の渋滞に巻き込まれることがないため、スムーズにスケジュール管理が行える点もメリットだろう。

Point 3

親日国タイ、日本との学校交流に高い関心

タイはさまざまな面で日本との関係が深く、親日感情が非常に強い国だ。第二外国語として日本語を学んでいる高校生も多く、そのレベルは驚くほど高い。日本語教育をさらに充実させるために、また国際交流によって視野を広げるために、日本の学校との交流に高い関心をよせる学校は多い。

同じことは日本の学校にも言えるだろう。学校交流による異文化体験は生徒にとって貴重な体験となり、将来への大切な財産になるはずだ。タイでは、日本語に加えて、英語教育にも力



Point 4

微笑みの国の安心セキュリティと世界水準の医療

一時は政情不安が伝えられたタイだが、現在では落ち着き、従来の安定した社会に戻っている。微笑みの国と呼ばれるタイ。そもそも治安は非常に良く、毎年1,500万人以上の観光客が世界中から訪れる観光立国だ。バンコク中心部でも安心して観光を楽しむことができる。また、衛生状況も先進国並み。水道水は飲めないが、中級以上のホテルには通常各部屋にミネラルウォーターが用意されている。日本人観光客がよく使うホテルやレストランであれば食事もまったく問題ない。余計な心配をせずにタイをはじめさまざまな料理を楽しむことができる。

タイは東南アジア随一の医療体制が整っていることでも知られている国だ。バンコクには、バムラート病院やサミティバート病院など国際スタンダード病院として認定された医療機関もあり、そのレベルは世界的にも高い。国をあげてメディカルツーリズムに力を入れていることから、その充実ぶりが分かる。また、バンコクには日本人医師が常駐している病院も数多



くあり、日本の傷害保険が適用される病院も多い(要証券元本持参)。異国の地での体調トラブルは何かと不安なもの。しかし、日本人医師による診察であれば、言葉の問題も含め何かと心強いはずだ。

Point 5

森からビーチまで、手つかずの自然のなかで体験学習

北部の山岳地帯から南部のビーチまで、タイには多様な大自然が広がっている。バンコク、チェンマイ、プーケットなどから簡単にアクセスできる場所に手つかずの自然が多く残っており、限られた日程の中でも自然学習の機会を組み込むことが可能だ。五感に訴える自然体験学習のインパクトは強く、タイの生態系を考えたうえでも教育効果は高いだろう。

たとえば、世界自然遺産に登録されている

Point 6

タイ国政府観光庁のサポートも充実

タイ国政府観光庁では、教育旅行のプロモーションに力を入れている。タイに関する学習素材の提供、事前ガイダンスへの講師の派遣、教育旅行に関する相談など、タイに関心のある学校へのサポートを実施。今後さらに若い世代の日泰間交流を側面支援していく方針だ。

日本との学校交流を積極的に推進 カセサート大学付属学校の例

日系企業も多く進出しているチョンブリーにあるカセサート大学付属学校のマルチリンガルプログラムでは、日本語教育に力を入れており、その一貫として日本の学校との交流にも積極的に取り組んでいる。

これまでの実績としては、立命館宇治高校との交流で、カセサート大学付属学校からタイの長期休暇時期である10月に、立命館宇治からは夏休みの期間にそれぞれの学校を訪問した。また、実践女子高校とは約1ヶ月間の交換留学プログラムを実施した実績もある。さらに、2011年からは和歌山県立星林高校との交流もスタートさせた。



同校のマルチリンガルプログラムでは、小学校1年生から英語を学び、4年生になると英語に加えて、日本語あるいは中国語が選択必修になる。日本語コースでは、日本語学習だけでなく、日本文化の理解にも熱心に取り組んでおり、さまざまなイベントを実施することで日本文化の紹介にも一役買っている。



東京事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館2F TEL.03-3218-0355
 大阪事務所 〒550-0014 大阪市西区北堀江1-6-8 テクノビル四ツ橋ビル2F TEL.06-6543-6654/6655
 福岡事務所 〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラ6F TEL.092-725-8808
 インターネット <http://www.thailandtravel.or.jp/> (日本語) <http://www.tourismthailand.org/> (英語)
 Facebook [@tat_jp](http://www.facebook.com/thailandtravel.or.jp)
 Twitter

